



げますと、ラルスはおなじくがいをぬいで、わたしのそばへ、しき、
「ほいしよう。」といつてもぐりこみました。ラルスは、それから、いま二人のはいった毛皮の
ふちを、しっかりと、くくりつけ、四方のふちふちへほし草をもりあげて、風がすこしもはい
らないように、せきとめました。それがすむと、

「さ、はやくくつをぬいで、えりまきもとつて、それから上着も、どう着も、ズボンも、すつ
かりボタンをはずして着物を、からだじゅう、どこへもかたく、くつついているところがない
ように、ゆるくして。」といいます。

「できた？ それじゃよこにお寝なさい。二人で、ぴったりくつついて寝るんです。ほら、あ
ったかいでしょう？」

それこそまったく身うごきをする余地もないほどきゆうくつはきゆうくつですが、しばらく
じいっとしていると、まるであたりまえのねどこへでもはいつたように、ほかほかとあったか
で、雪嵐の野原の中にいるということも、わすれてしまっそうです。それに、ふしぎなこと
は、二人の息がつまらないように、ひつようなだけの空気が、どこから知らず知らずはいつ
つてくるものとみえて、毛皮を頭からひつかぶっていても、ちつとも息ぐるしくはありません。